

12/18 手塚

社会的検査陽性率 1.46%

東京・世田谷区 クラスター抑制期待

東京都世田谷区の保坂展人区長は17日記者会見し、新型コロナウイルス感染症対策として同区が10月から実施している介護事業所職員などへのPCR検査（社会的検査）の結果を発表、14日までに3619人が受検し53人が陽性（陽性率1.46%）だったとしました。

保坂氏は「市中感染率も1%を超える勢いと推定する。社会的検査では陽性者15人が全員無症状で見つかった施設があり、クラスター（感染者集団）化する直前だったかもしれない。（社会的検査で）抑制することを期待したい」と語りました。

同区は社会的検査を、介護事業所や障害者施設、保育園・幼稚園の職員らを対象に2万3000件実施するとしていました。同日の会見で期間を延長、介護や障害者施設の入所者1万2000人も追加するとしました。

保坂氏は、社会的検査で陽性者が出た結果施設が人手不足となる場合に備え、介護施設が協力して職員を派遣し合う覚書を交わすことを区が積極的に調整し、さらなる受検を呼びかけるとのべました。

また国が複数の検体を同時に検査する「プール方式」による行政検査を認めていないことから、都の補助金を活用し介護と障害の通所・訪問事業所の職員1万5400人に、唾液を自己採取し4検体を同時に調べるスクリーニング検査を行うとのべました。これにより2カ月に1回程度の検査が可能になるとしています。

さらに社会的検査の

拡大に伴って必要になる、陽性者の追跡（コンタクトトレーシング）を行う専門人材の確保・育成を進めるとしています。